

# 藤女子大学 図書館 だより



Fuji Women's  
University Library

## CONTENTS

1. 図書館で過ごす時間  
人間生活学科 岡崎由佳子
4. 教員への道は「ポップ作り」から!  
人間生活学科 伊井義人
6. 学生による企画展示
7. 図書館委員会からのお知らせ
7. ノートパソコンの貸出開始・  
無線LAN使用エリア拡大のお知らせ
8. 図書館資料Navi 第3回  
文化総合学科 柘瀨弘市

## 図書館で過ごす時間

人間生活学科 岡崎由佳子

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。また、在学生のみなさんにとっても新年度が始まりました。学生生活を送る中で、みなさんにとって関わりの深い場所の一つになるのが大学の図書館です。図書館は興味ある書籍を読む場所であるとともに、授業の予習・復習を行ったり、レポート作成のための資料を調べたり、試験や資格取得のための勉強を行ったりする場所でもあります。図書館特有の静かな環境の中で、書籍の匂いに囲まれて自分の世界に籠ることができる場所です。

私が大学生だった頃は、レポート作成や試験勉強をするために大学の図書館を利用していました。図書館に行くと、たくさんの蔵書の中から目的とする資料を調べている人や、熱心に研究に取り組んでいる人の姿に刺激を受けました。大学院生の頃は、研究に必要な文献を集めるために図書館に通っていました。研究室のパソコンを使ってPubMedなどのオンライン検索で調べた文献のうち、PDFでダウンロードできないものは図書館で複写する必要が

[次ページへ続く](#)

No.87  
2014.4

あったからです。当時通っていた自然科学系の文献を所蔵する図書館は、同じ大学構内にあるにもかかわらず、所属していた研究室から30分ほど歩かなければならなかったため、複写に行くだけですぐに1～2時間は経ってしまいました。また、図書館に足を運ぶと、当初目的としていたもの以外の興味ある文献を思いがけず見つけることができました。パラパラと何気なく学術雑誌のページをめくったり、目次を眺めていたり、書架の間を歩いたりすると、これは面白そうだな、と感じる文献に出くわすのです。このように偶然出会った文献から、研究を深めるための新たな知見を得ることもありましたが、大抵は当初の目的とは異なる本や文献の世界に引きずり込まれ、脇道にそれしてしまうの方が多く、図書館を出るまでに長時間を要することも多々ありました。ただ、このような一見無駄に思えるような図書館での時間が、現在の自分を確立する有意義な時間であったようにも思われます。学生の頃にもっと図書館に通ってこのような時間を過ごしておけばよかったとさえ感じることがあります。

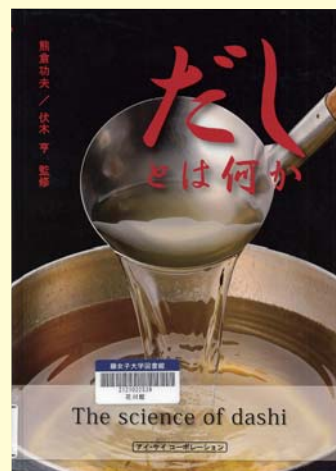
図書館で複写した英語の論文は、分からない専門用語を辞書で調べながら読み進めていくため、当初は一本の論文を読むことにも四苦八苦し、長時間を要していました。ただ、同じ論文を何度も読み返したり、辞書で単語を繰り返し調べ続けたりすることによって、少しずつですが読むことにも慣れていきました。また、論文や専門書には必ず引用文献が記載されています。資料を読み進めながらこれらの引用文献を辿っていくと、ともすれば間違いがあったり正確性に欠けたりするインターネットの情報とは異なり、より正確な内容を知ることができます。学生の皆さんは、卒業研究、レポート作成、ゼミ発表のためのレジュメ作成の際に、図書館を利用して専門分野の資料を調べていくこ

とになるかと思います。最初は内容を理解するのに時間がかかることがあるかもしれませんが、資料の引用文献にも目を向けるようにしてみると、専門分野の知識をより深めることができるのではないかと思います。

藤女子大学図書館は、研究室や講義室からとても近い場所にあるため、講義の空き時間に気軽に立ち寄ることができます。文献複写の対応も早く、図書館の職員の方々には感謝しています。私は花川館に行くことが多いのですが、専門分野の食物学関係の図書が、学生時代に通った図書館よりはるかに豊富に揃っています。

学生の皆さんの中には、この春から新生活を始める方もいるかと思います。そこで、自分自身の食生活を振り返ってもらう意味も込めて、図書館に所蔵されている食生活関連の本を二冊紹介したいと思います。

一冊目の熊倉功夫、伏木亨監修『だしとは何か』



『だしとは何か』  
498.51/D43 花川館所蔵

(アイ・ケイコーポレーション)は、日本食の重要な構成要素である「だし」と「うま味」について文化的観点と科学的観点の両方から述べられた興味深い本で、花川館に所蔵されています。近年日本食の流行により、

海外でも多くの日本食レストランが見受けられるようになりましたが、以前ヨーロッパの日本食レストランで食事する機会があった時に、だし、こく、うま味といった感覚は、日本と海外で大きく異なると感じたことがありました。日本料理のだし汁は、こんぶ、かつお節、乾しいたけといった乾燥して

うま味が濃縮された食材を使用して、短時間でうま味成分を抽出するのが特徴です。このだしとうま味成分を発見したのは日本人で、現在「UMAMI」は世界共通用語となりつつあります。本書を読むと、日本の食文化に重要な「だし」は、料理の美味しさだけでなく、健康にも関わりの深いことが科学的レベルで解明されつつあることが分かります。またあとがきには、日常生活でだしを簡単に利用する方法について次のような記述があり、思わず実践してみたいくなります。「かつおぶしを茶椀に入れて、しょうゆを注ぎ、お湯をかければ、おいしいカチューユ（沖縄で古くから愛飲されているスープ）もどきが出来上がる。仕事の合間にも飲めば、ほっと一息つけることを保証します。昆布茶はもっと簡単で、いいですよ。」昨年12月に「和食；日本人の伝統的な食文化」がユネスコ無形文化遺産に登録されました。本書を読むと、日本食文化とだしとの関わりについてさらに探求したくなります。

二冊目の辨野 義己(べんのよしみ)著『大便通』



『大便通：知っているようで知らない  
大腸・便・腸内細菌』  
491.3/B35 花川館所蔵

(幻冬舎)も花川館に所蔵されている本で、腸内環境と健康との関わりについてわかりやすく解説されています。著者は、腸内環境学の第一人者で、腸内環境に関する書籍を数多く発表されています。本書を読むと、大便是単なる食べ物の残りカスではなく、健康状態を知らせ

る体からの「便り」であることが分かります。健康な大便の80%は水分で、水分を除いた固形分のうち3分の1が食べカス、3分の1が古くなっては

がれた腸粘膜、そして残りの3分の1が腸内細菌であると言われています。また腸内には約1,000種類の細菌がおり、水分を除いた大便1グラムの中には約1兆個の細菌が含まれていると考えられています。著者は本書の中で、多種多様な腸内細菌のバランスは、食生活によって影響を受けると述べています。特に、食生活の欧米化に伴い、若い女性の「腸年齢」が高齢化している、という内容はとても興味深いです。学生のみなさんの中には、一人暮らしやサークル、夜遅くまでのアルバイトなどの影響で、食生活が不規則だと感じていたり、食事のバランスが取れていないと感じていたりする方もいるかもしれません。本書は、腸内環境をコントロールするための健康的な食生活の在り方についても書かれており、日々の食生活を見直すきっかけにもなります。

近年図書の電子化が進んで目的とする文献の検索が簡単にできるようになり、大変便利になりました。一方、図書館独特の雰囲気—書籍の匂いやページをめくる音、調べものや勉強をしている人たちの姿—は私たちの知的好奇心を刺激し、勉強や研究に対して前向きな気持ちにさせてくれます。何も用がなくてもいい、ただ立ち寄るだけでもいいと思います。図書館に行けば多くの書籍と出会いますが、そのことはさまざまな世界と触れ合うことを意味しているとも考えられます。大学生の間にはできるだけ多くの時間を図書館で過ごすことが皆さんにとっての大きな糧になるものと考えています。



# 教員への道は「ポップ作り」から!

2013年5月に「教育原理」の授業において図書館職員から「ポップ作り」についてお話する機会がありました。

これは授業を担当されている教職課程の伊井先生からご依頼をいただき実施したものです。

受講した皆さんが「教育」に関するおもしろいポップを作成してプレゼンテーションに臨んだ後、ポップは本やDVDとともに両キャンパスの図書館で展示されました。

伊井先生、そしてポップを作成した両学部の皆さんに感想を寄せていただきました。

人間生活学科 伊井 義人

コミュニケーション能力、リーダーシップ、伝える力、忍耐力から学力まで、教員をめざす学生にとって必要な資質・能力は数えきれない。その多さに、学生だけでなく、私でさえ、目眩に近い感覚に陥ることがある。しかし、その中で何が一番大切な能力かを問われた時、私は迷わず「読書(鑑賞)力」「要約力」と答えるだろう。

学校種別を問わず、教員には多くの仕事が降り掛かってくる。昨今では、授業よりも、生徒指導や保護者対応の時間の方が多いという声も聞こえる。それでもなお、私は、教員にとって一番大切な仕事は「授業」であると言いたい。その授業を計画する上で、不可欠なのが先の二つの力となる。

藤女子大学には、幼稚園教諭、栄養教諭、中学校・高等学校教諭を目指す学生のための教職課程が設置されている。そして、中等教育の免許状に限れば、毎年、2～3割の学生が教員免許を取得し、本学を卒業していく。そんな中で、私は2年前期の「教育原理」という講義を担当している。ここでは15回の講義を通し「教育とは何か?」という途方も無くお堅い「問い」に対して、学生も私も格闘している。

時には、自分の学校体験を振り返り、何を学んできたか自問自答する。また、プラトンやルソー、デューイなど、燦然たる思想家に、その答えを導くための手助けを依頼することもある。そして、自分なりに「教育」や「学校」

の定義をひねり出すことを、この講義の最終目標としている。

私は二つの大学で14年間、この講義を担当してきた。毎年、個性豊かな学生に出会うのを楽しみにしつつ、少々、マンネリさも感じていた。そこで、昨年(2013年)度は、新たな試みをしてみた。教育に関連する本・DVDのポップ作りである。この試みの目的は三つある。「学生が図書館に親しみを持つ」「ワンフレーズで要約する」「何かを創造する楽しみと大変さを味わう」である。もちろん、これらの目的を通して、最終的に「教育とは何か?」への答えを見出す一助として欲しかったことは言うまでもない。

この取組のために、ポップの説明・作成・発表とほぼ3コマを割くことは、私にとって賭けでもあった。しかし、図書館司書の方々の説明を受けた後、作業にとりかかる学生たちの集中力には、驚きを隠すことができなかった。普段の講義時間では、なかなかお目にかかれぬ学生の姿に直面し、私は嬉しくもあり、せつなくもあった。

もちろん、学生全員が、最初からこの作業の意図を理解し、楽しんでいただけていたわけではない。学生の中には、手作業を苦手とする者もいた。ただ、そんな学生には「適切」に手を抜く方法をそれとなく教えた。この手抜き術は、ポップ作りのプロセスでの偶然の教育成果であったかもしれない。



本やDVDは、私たちが普段、出会えない世界や人、そして考えに出会わせてくれる。そこから得た知識は、将来的に自分の血となり肉となる。これは、私たちに一方的に情報を降り注ぐ、インターネットとは違う魅力である。私自身、講義を行う時には、インターネットを参考にしますが、やはり最後に頼るのは「本やDVD」である。

中等教育の教員免許の取得には、学生は4年次に、三週間の教育実習の経験が必要である。そこで、学生は、教員として数多くの授業を準備し、実施する。そんな時、彼女たちを一番助けてくれるのが、本や視聴覚資料であることは間違いない。それらの資料の宝庫が、図書館なのである。このポップ作りが、教員を目指す学生たちに

とって、図書館に近づく小さな切っ掛けになったのであれば、このささやかな試みの目的は達成できたと私は考えている。



### 日本語・日本文学科 2年 千葉さん

図書館でたまたま手に取ったDVDが『蝶の舌』でした。喘息のせいで小学校に一年遅れの入学となった主人公の少年モンチョに、グレゴリオ先生は優しく接し、“蝶にも舌があること”など多くのことを教えてくれました。また、モンチョは学校に行ってから初めての友達と出会い、また恋を経験します。モンチョの成長とグレゴリオ先生との出会いと別れを通して、戦争や迫害についてとても考えさせられる内容でした。花びらを1枚ずつ付けることに苦労しましたが、タイトルにもある通りこの話は“蝶の舌”がキーワードとなっています。蝶が蜜を吸う為舌を伸ばしている様子を見て欲しかったので、花と蝶が立体的なポップを作りました。



DVD  
『蝶の舌』本館所蔵

### 食物栄養学科 2年 齊藤さん

Pちゃんの命の長さは誰がきめるの？このひとことが、命の大切さや日常で何気なく食べている豚に、尊い命があったことを教えてくれました。非常にメッセージ性の強い物語で、見た時に衝撃を受けました。見たことのない人は一度は見るべきと思いこの映画を選びました。

ポップを作る時に、苦労したところは、一目見てどれだけ印象に残せるかという点です。Pちゃんはペットの様子が可愛がられていたことを連想できるようによだれかけをつけました。また、ポップの文章にも気をつけ、内容をまとめる作業も、分かりやすく伝わるように努力しました。



DVD  
『ブタがいた教室』花川館所蔵

※学年は、授業時点の学年です。



# 展示紹介

# 学生による企画展示



図書館では、学生さんに図書館にある資料を紹介してもらった企画を年間通して行っています。

1人でも、グループでも展示は出来ますので、興味のある方はカウンター職員にお尋ねください。

今回は、個人で展示してくれた学生さん2名とグループ展示してくれた2つのグループの代表の学生さんにオススメの1冊を紹介してもらいました。\*学年は、展示時点の学年です。

## 文化総合学科3年 奥村さん

今回の展示では、『THE HISTORY OF WESTERN WORLD』というテーマで展示をさせて頂きました。その中でも私のお気に入りの本は、今野國雄『西洋中世世界の発展』岩波全書セレクション(2005年)です。

幕末・日本の近代化に大きな影響を与え、世界の覇権国を形成した西洋世界。その世界が政治的にも文化的にも大きく変化したのは、西洋が「中世」の時代です。

現在私たちが生きているのはグローバリゼーションの時代ですが、その問題点を「歴史」から見つけ出し、先人の成功や失敗を踏まえつつ、さらに私たちが生きる現代社会について考えてみませんか？

### 『西洋中世世界の発展』今野國雄著

請求記号：230.4/Ko75 (本館所蔵)



## 文化総合学科4年 坂江さん(展示代表者・執筆)

### 文化総合学科4年 酒匂さん、本間さん

### 日本語・日本文学科4年 渡辺さん

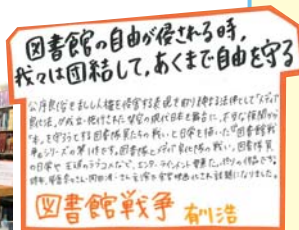
私達は【映像化作品】というテーマで、映画・ドラマなどの原作となった本とDVDの展示を行いました。『細雪』『パンドラの匣』といった日本文学の名作から『モモ』『魔女の宅急便』といった児童文学まで、幅広いジャンルの作品を集めました。

展示の中で私が紹介した本の一冊が『図書館戦争』です。本を読む自由を守ろうとする図書館の戦いと日常を描いた作品で、昨年には実写映画化もされました。

映像化をきっかけに、原作に興味を持つ人も多いのではないのでしょうか。原作と映像作品の違いを見比べるのも面白いと思います。私達の展示が、読書や映画を見る一つのきっかけになれば嬉しく思います。

### 『図書館戦争』有川浩著

請求記号：913.6/A71 (花川館所蔵)



## 人間生活学科2年 佐藤さん(執筆)

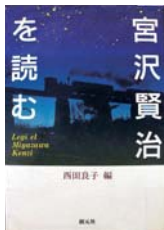
### 人間生活学科2年 氷見さん

私たちは、去年授業で取り扱った宮沢賢治のレポートを書くときに、たくさんのお説や関連資料に目を通しました。その時に参考にした資料や、興味を持った文献を集めて【宮沢賢治の世界】というテーマで展示をいたしました。

中でもお勧めしたいのが『宮沢賢治を読む』という本です。この本は、「賢治の世界を知るには推敲を知る事」をテーマとし、根本的な視点からわかりやすく解説してくれている一冊です。参考資料にはぜひこの本を活用していただきたいと思います。

### 『宮沢賢治を読む』西田良子編

請求記号：913.6/Mi89n (両館所蔵)



## 人間生活学科1年 佐藤さん

【ジブリの作画監督 高坂希太郎特集】というテーマで、展示させて頂きました。高坂監督は、「もののけ姫」や「千と千尋の神隠し」そして「風立ちぬ」といった多くのジブリ作品の作画を務めています。その高坂さんの初監督作品『茄子 アンダルシアの夏』を今回紹介したいと思います。

この映画の魅力を一言で語るなら「疾走感100%！」。自転車ロードレースという日本ではあまり馴染みのない競技ですが、解説があるので問題無し！

47分という短い尺の間に、風を通り過ぎるような心地よい時間を感じられる、そんな作品です。

### DVD『茄子 アンダルシアの夏』(本館所蔵)



# 図書館委員会からのお知らせ

## 本学における研究紀要類の電子化の現状について（その2）

「図書館だより」第81号（2011.4）でお知らせした標記についての続報です。

「家庭科・家政教育研究」が2012年発行の第7号から新たに電子化の対象誌となりました。

「図書館だより」前号第86号で、2013年度図書館委員会が実行すべき課題として、9項目をお知らせいたしました。この中でも機関リポジトリの構築に向けてまずは本学発行の研究紀要類の電子化を積極的に進めることとしております。

文部科学省の科学技術・学術審議会から平成22年に審議のまとめとして公表された「大学図書館の整備について」の中でも、研究活動に即した支援と知の生産への貢献として、大学等において構築されている機関リポジトリは、研究者自らが論文等を搭載していくことにより学術情報流通を改革するとともに、その公開の迅速性を確保するものです。それと同時に、大学等における教育研究成果の発信を実現し、社会に対する教育研究活動に関する説明責任の保証や、知的生産物の長期保存などを図るうえでも大きな役割をはたすものと期待されております。

### ○対象誌と電子化論文数(2014年3月現在)○

藤女子大学紀要 I部 第4号(1966)–第49号(2012) (一部許諾を得た論文のみ)

藤女子大学文学部紀要 第50号(2013)+ (誌名変更)

藤女子大学紀要 II部 第5号(1967)–第49号(2012) (一部許諾を得た論文のみ)

藤女子大学人間生活学部紀要 第50号(2013)+ (誌名変更)

キリスト教文化研究所紀要 第1号(2000)–第14号(2013)+

人間生活学研究 第14号(2007)–第20号(2013)+

藤女子大学福祉研究所年報 第1巻1号(2006)

藤女子大学QOL研究所紀要 第2巻1号(2007)–第8巻1号(2013)+ (誌名変更)

家庭科・家政教育研究 第7号(2012)–第8号(2013)+

毎年約50論文が電子化され、現在667論文が国立情報学研究所(NII)の論文情報ナビゲータ(CiNii)に搭載されています。学生の皆さんCiNiiから先生の論文を読んでみてください。



## ノートパソコンの貸出開始・無線LAN使用エリア拡大のお知らせ

図書館では、Office を搭載したノートパソコンの貸出を開始しました。広い机に本や雑誌を広げながらデータベースも同時に使え、Word で論文・レポート作成ができるので便利です。是非ご活用ください。

また、無線LANが使用できるエリアも拡大されました。

本館では情報検索室と閲覧室の一部で利用できます。花川館では2Fと3Fの一人掛けデスク周辺を除く全てのエリアで利用できるようになりました。

上記について、いずれも詳しくはカウンターまでお問い合わせください。



## 読む力、考える力

—ヒュームとルソー そしてカント—

*The life of David Hume, Esq. / written by himself*  
Jean-Jacques Rousseau, *Émile, ou De l'éducation*

文化総合学科 榊渥 弘市 (哲学)

藤の図書館は、全国の大学図書館の中で常に利用件数トップ10入りを誇る評判の図書館です。また、蔵書内容の良いこと



でも高い評価を得ております。たとえば、特筆すべきことですが、デーヴィド・ヒューム(1711-76年)の自叙伝*My Own Life*の貴重な初版本が本館に所蔵されています。

ところで、ヒュームと言うと、一歳年下のルソー(1712-78年)との友情と絶交の顛末を想い浮かべる哲学通の方もおられることでしょう。しかし、私のようにカント(1724-1804年)を研究する者にとっては、イギリス人のヒュームとフランスで活躍したジュネーブ生まれのルソーが、ドイツの偉大な哲学者カントの理論哲学と道徳哲学に与えた影響を思い起こさずにはいられません。

カントは1781年に近代哲学の分水嶺をなすと言われる『純粹理性批判』を出版します。それは、従来からの事物の認識の仕方をコペルニクス的に180度転回した「まったく新しい学問」の誕生でした。そこに至った経緯を、カントは2年後の著書の中で、次のように明らかにします。「私は率直に告白するが、デーヴィド・ヒュームの警告こそが、何年も前にはじめて私の独断のまどろみを破った」と。ここでのヒュームの警告とは、ヒュームが『人間本性論』において綿密に展開した、いわゆる因果律に対する「ヒュームの懐疑」のことを指します。一方、当のヒュームは死期の近いことを悟って、「いかなる著述の企てのなかでも、私の『人間本性論』ほど不運なものはない……」という有名な悲嘆の言葉を、自叙伝*My Own Life*に書き残します。

アイロニカルなことに、イギリス経験論が生んだヒュームの懐疑論を祖国の思想家は無視し、あるいは排斥します。それに反して、合理的哲学を思考するドイツのカントがヒュームの懐疑論の研究価値とこの「破壊的な哲学」の問題性を正当かつ冷

静に評価します。これは思想のパラドックスです。カントは、ヒュームの懐疑論と当のヒューム以上に真摯に対峙し、「沈黙の10年」の苦闘の末に「純粹理性の批判」によってこれを克服したのです。

さて、本館所蔵の貴重本、ヒュームの自叙伝*My Own Life*は、彼の死の翌年の1777年に、親交のあったアダム・スミスの手紙を巻末付録に添えて、*The Life of David Hume, Esq. / written by himself* という表題で初めて出版された時のものです。縦17センチ×横11センチ。これは現在の新書版とほぼ同じサイズです。僅か62頁の小品ながら、230年余りに出版された初版本を前にした人の誰もが不思議な感動を覚えることでしょう。



ところで、カントが、出版されたばかりのルソーの『エミール』に読み耽って、日課の散歩を忘れたという話は有名です。このこと

あった数年後に、カントは深い感慨をこめて「ルソーはこの私を正道にもどしてくれた。目のくらんだおごりは消え失せ、私は人間を尊敬することを学んだ」と覚え書きに記します。それから20年余りに出された画期的な倫理学書、『実践理性批判』において、カントは「人間は、自らの自由の自律のゆえに、神聖である道徳法則の主体である」(第129節)と述べます。この人間の尊厳に対するカントの確固としたメッセージは、読む者にあの若き日のカントのエミール体験を彷彿させます。本館には8種類の『エミール』の訳本がそろっています。学生時代に是非読んでおきたい名著です。

*The life of David Hume, Esq. / written by himself*

請求記号：133.3/H98 (本館所蔵)

\* 禁帯出資料のため館内閲覧のみ可能です。ご利用の際は、カウンター職員にお尋ねください。

『エミール』ルソー著 371.1/R76/1-3 (本館所蔵)

\* 他にも訳本を所蔵しています。紹介しているものは一例です。

### ● 編集後記 ●

87号は、「図書館で過ごす時間」と題して巻頭言に岡崎由佳子先生から、「教員への道は「ポップ作り」から!」と題して伊井義人先生と授業を受講している学生さんから、図書館資料Navi第3回には「読む力、考える力—ヒュームとルソー そしてカント」と題して榊渥弘市先生から、また企画展示に参加した学生さんからそれぞれご寄稿いただきました。

岡崎先生の巻頭言の中にありましたが、「和食；日本人の伝統的な食文化」がユネスコ無形文化遺産に登録されました。最近では“食育”という言葉もあちこちで聞くようになり“食”について関心が高まっている気がします。図書館には“食”関連の本がたくさんあります。ぜひ手に取ってみてください。(W)



図書館キャラクター「きしんさん」

ケータイから本が探せます!



QRコード

藤女子大学 図書館だより 第87号 2014.3

発行者 藤女子大学図書館 札幌市北区北16条西2丁目

TEL 011-736-5407 FAX 011-709-4770  
<http://library.fujijoshi.ac.jp/>